

米沢の中高生よ 「異能」を目指せ 知的欲求満たせ

米沢市内の中高生が集まり、さまざまなテーマで対話を重ねるイベント「異能フェス」が3月7日午前10時から、同市中部コミュニティセンターで開かれる。主催は米沢東高（平塚志信校長）の生徒グループで、若い世代同士のコミュニケーションを通じ、新たな発想や考えを持った「異能」な人材を生み出せる土壌を地域に育てることを目指して初めて開催する。

企画したのは同校1年生の課題探究学習グループ「地歴公民ゼミ」の生徒たち。同ゼミは本年度、公立高校としては全国で唯一、総務省の「異能vationネットワーク」の指定を受けている。同事業は、イノベーション（技術革新）に必要な「異能」な人材の育成などを目指し、企業や学校などの取り組みを支援している。

イベント当日は、対話しながら考えを深めていく教育手法「p4c」を参加者が体験。p4cは

米沢東高生主催 来月7日、対話の集い

「子どものための哲学」(philosophy for children)を意味し、正解のない問いについてボールを回しながら対話する。ボールを持った人しか話せない、他人の発言を否定しない、などのルールがある。また、図書委員会の協力を得て、知的書評合戦「ビブリオバトル」も実施する。p4cは10人程度、ビブリオバトルは4、5人のグループに分かれて行う予定。



「異能フェス」への参加を呼びかける
米沢東高の生徒たち 一米沢市

これまで同様のイベントを校内で開催したことはあったが、他校から幅広く参加を募るのは初めて。地歴公民ゼミの1年大竹希美さん(16)は「どれだけ集まってくれるか不安もあるけど、いろいろな人と知り合って本音で話ができるのが楽しみ」と話す。図書委員長(17)は「ビブリオバトルは本を紹介するだけでなく、本を通して人を知ることが出来る。皆が楽しめるような場になりたい」と意気込む。

参加対象は市内在住か、市内の学校に通学する中高生。21日までに学校を通じて申し込む。問い合わせは同校異能フェス担当0238(22)3450。(阿久津誠)